

安城市市民アンケート調査報告書 (概要版)



平成25年2月

市民アンケート調査結果報告（概要）

調査目的	平成 17 年に第 7 次安城市総合計画(H17～H26)を策定し、めざす都市像「市民とともに育む環境首都・安城」の実現に向けて各取組みを進める中、市民の生活意識や市政の各取組みに対する満足度、重要度を把握することにより、今後の住みよいまちづくりに向けた取組みへの基礎資料を得ることを目的とします。
調査対象	市内在住の 18 歳以上の男女 6,000 人を無作為抽出
調査期間	平成24年9月28日(金)～平成24年10月18日(木)
有効回収	3,277 人 (54.6%)
調査項目	これまでの安城市の取組み(41施策)に対する満足度・重要度

安城市の住みやすさ

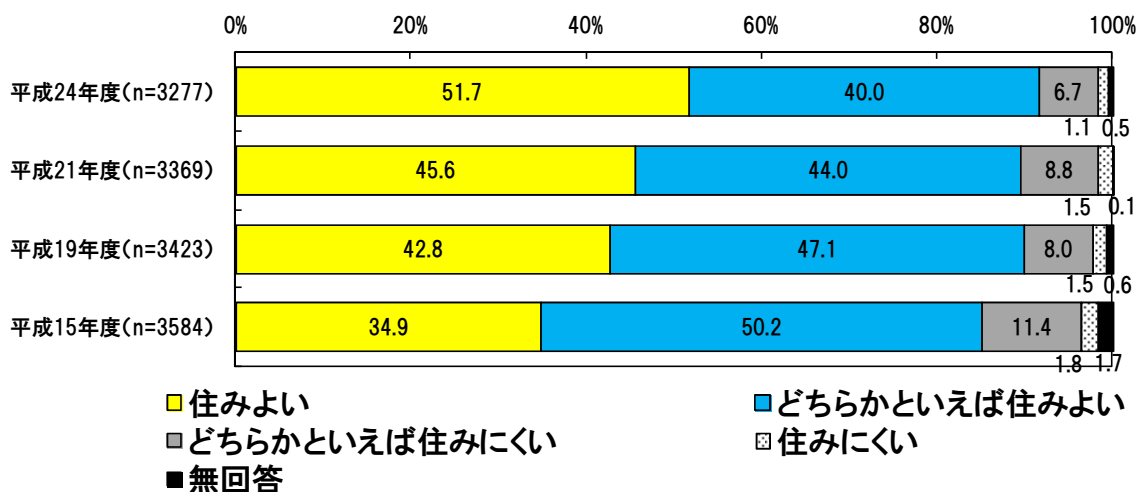
過半数の人が“住みよい”としています。
そして9割以上の人が“住みやすい”と思っています。

安城市の住みやすさについて、「住みよい」が 51.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば住みよい」が 40.0%と、**91.7%の人が“住みやすい”**としています。

一方、「住みにくい」(1.1%)と「どちらかといえば住みにくい」(6.7%)を合わせた、“住みにくい”とした人の割合は 7.8%となっています。

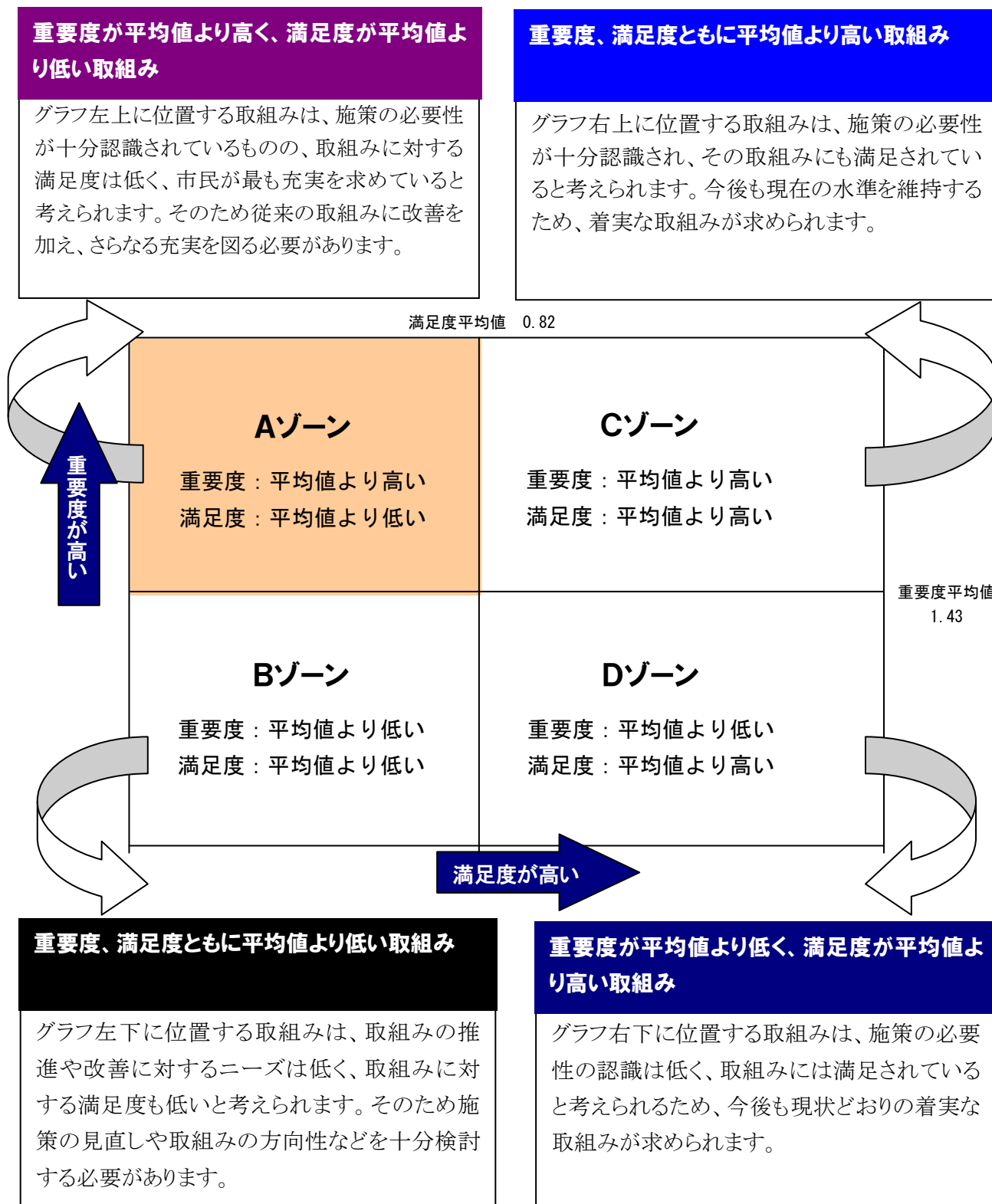
平成 21 年度調査と比較すると、“住みやすい”とした人の割合は 2.1 ポイント増加し、“住みにくい”とした人の割合は 2.5 ポイント減少しています。

また、“住みにくい”とした人(7.8%)の理由は、「交通の便が悪い」、「日常の買い物が不便である」、「騒音、大気汚染等自然環境が悪い」などがあげられます。



満足度を横軸に重要度を縦軸にとると、41項目の取組みの満足度と重要度の関連性については3ページの分布図に表されます。

【 評価指標の見方 】

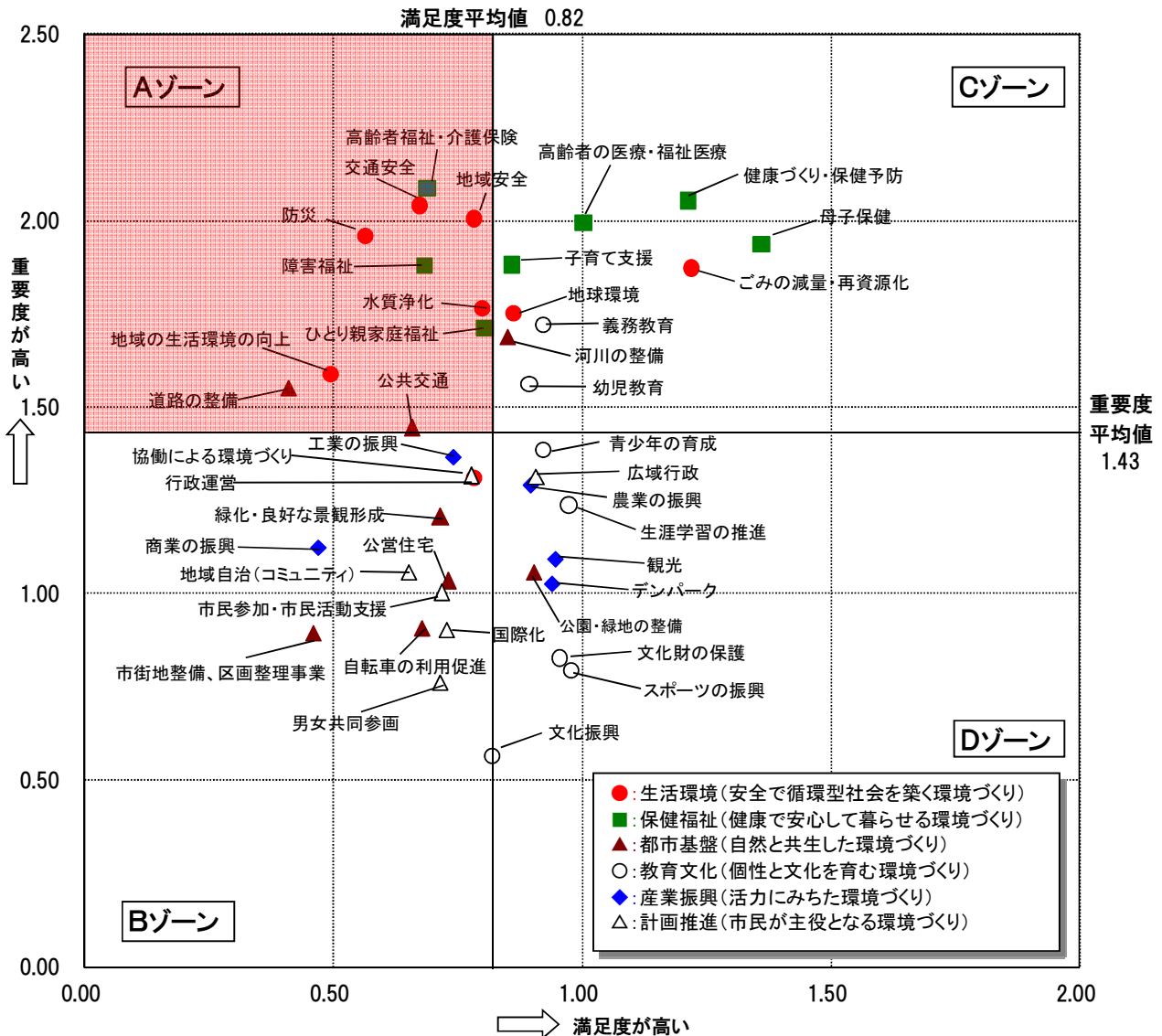


満足度評価の平均得点は、0.41 から 1.36 の範囲にあり、平均値 0.82 となっています。また、重要度評価の平均得点は、0.56 から 2.09 の範囲にあり、平均値は、1.43 です。

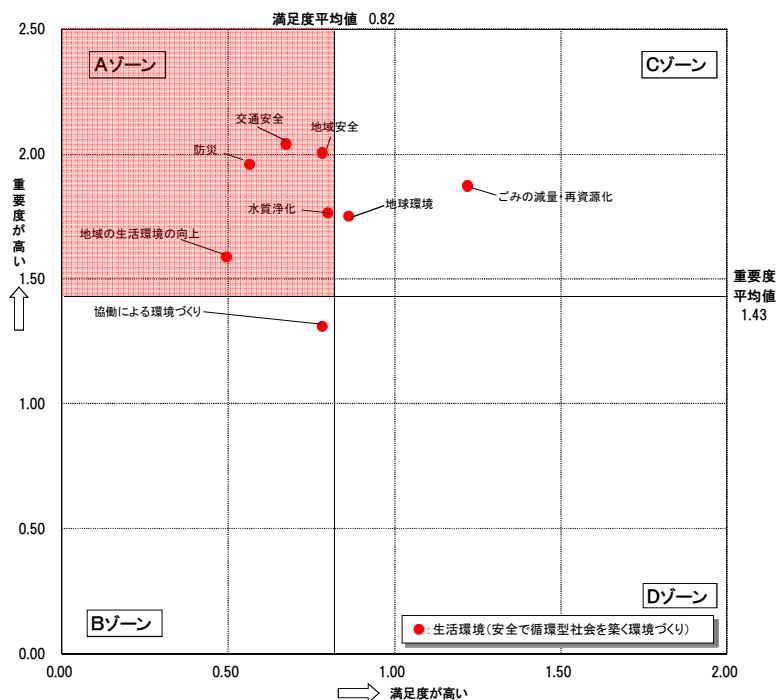
網掛けの部分の「Aゾーン」に位置する施策項目は、《施策の必要性が十分認識され、かつ今後の取組みのさらなる推進や改善に対する市民のニーズ(期待)が高い施策項目》を示しています。

今回の調査では、今後、優先的に取り組むべき施策項目として、「地域の生活環境の向上」「水質浄化」「防災」「地域安全」「交通安全」の生活環境に関する 5 項目、「高齢者福祉・介護保険」「ひとり親家庭福祉」「障害福祉」の保健福祉に関する 3 項目、「道路の整備」「公共交通」の都市基盤に関する 2 項目の計 10 項目が該当しています。

【 満足度と重要度の関係(平成 24 年度) 】

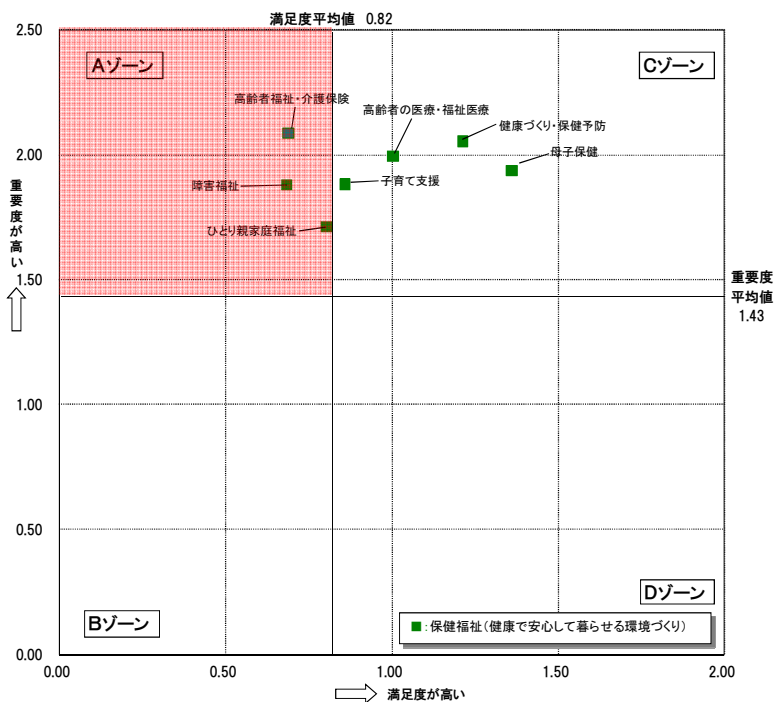


【 生活環境分野における満足度と重要度の関係(平成 24 年度) 】



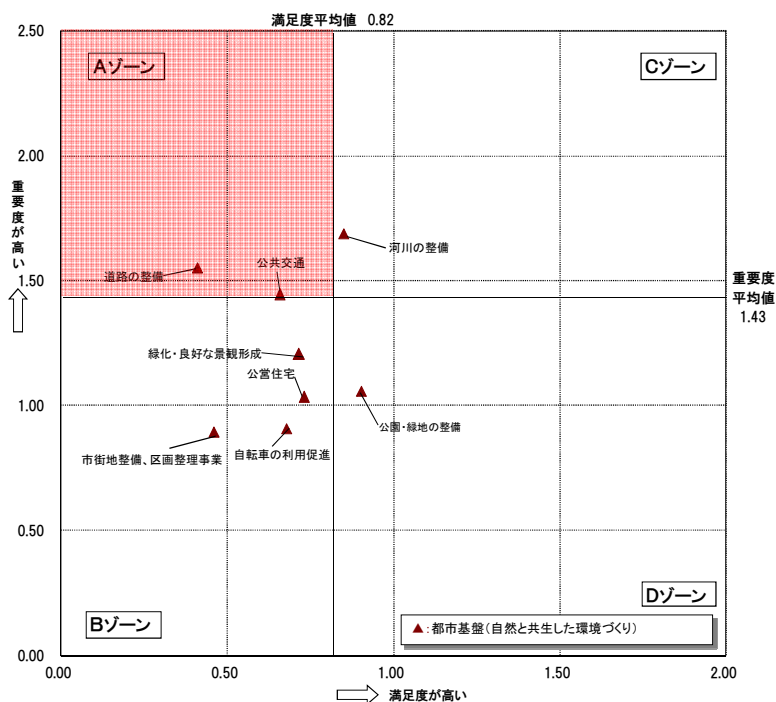
生活環境分野は全 8 項目中 7 項目の重要度が平均値を上回っており、施策の必要性が高い分野です。交通安全をはじめ 5 項目 (Aゾーン) の満足度が平均値を下回り、施策のさらなる充実が必要です。また、ごみの減量・再資源化などは、これまでの取組みに対する一定の評価を得られていますが、今後も着実な取組みが求められます。

【 保健福祉分野における満足度と重要度の関係(平成 24 年度) 】



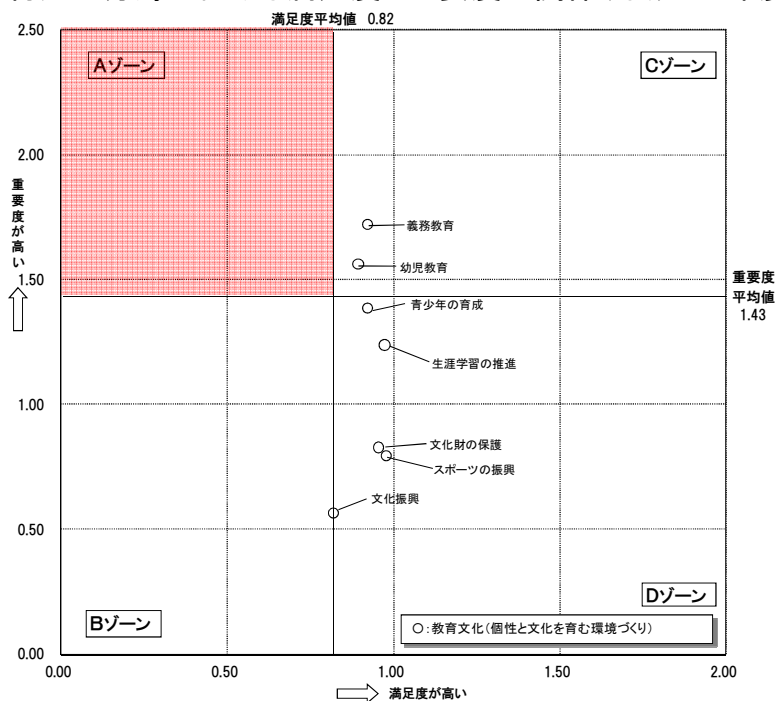
保健福祉分野は全 7 項目の重要度が平均値を上回っており、施策の必要性が高い分野です。健康づくり・保健予防をはじめ 4 項目 (Cゾーン) は、施策の取組みに対する満足度が高く評価されていますが、高齢者福祉・介護保険をはじめ 3 項目 (Aゾーン) は満足度が平均値を下回っているため、施策のさらなる充実を図る必要があります。

【 都市基盤分野における満足度と重要度の関係(平成 24 年度) 】



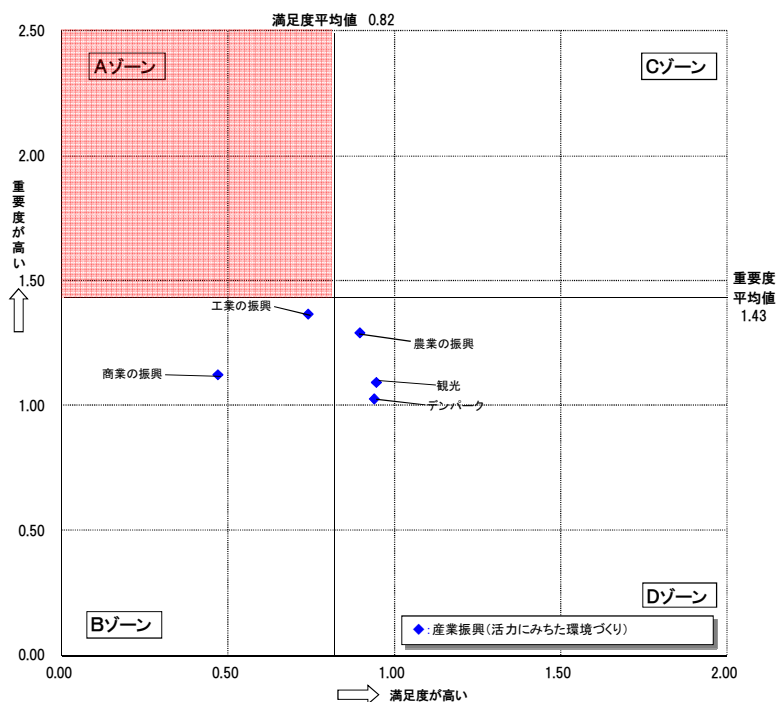
都市基盤分野は全 8 項目中 6 項目の満足度が平均値を下回っており、施策の充実を図ることが必要な分野です。自転車の利用促進をはじめ 4 項目 (Bゾーン) が重要度も平均値を下回っており、取組みの方向性などを十分検討する必要があります。

【 教育文化分野における満足度と重要度の関係(平成 24 年度) 】



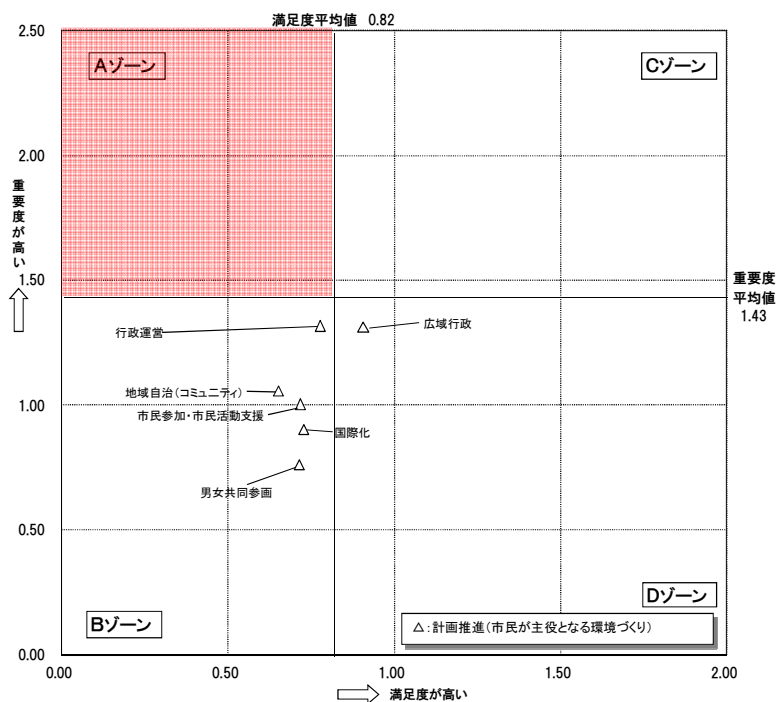
教育文化分野は全 7 項目の満足度が平均値を上回っており、施策が充実した分野です。一方で、スポーツの振興をはじめ 5 項目 (Dゾーン) の重要度が平均値を下回っており、施策の重要性を市民へ周知するとともに着実な取組みが求められます。

【 産業振興分野における満足度と重要度の関係(平成 24 年度) 】



産業振興分野は全 5 項目の重要度が平均値を下回っており、施策への関心が低く必要性が十分に浸透していない分野です。工業の振興、商業の振興(Bゾーン)は満足度も平均値を下回っていることから、施策の取組みを検討する必要があります。また、農業の振興をはじめ 3 項目(Dゾーン)では施策の重要性を市民へ周知するとともに着実な取組みが求められます。

【 計画推進分野における満足度と重要度の関係(平成 24 年度) 】



計画推進分野は全 6 項目で重要度が平均値を下回っており、施策への関心が低く必要性が十分に浸透していない分野です。広域行政(Dゾーン)で一定の満足度が得られているものの、男女共同参画をはじめ残りの 5 項目(Bゾーン)は満足度も平均値を下回っているため、市民に周知するとともに取組みの方向性などを十分検討する必要があります。